ちょっと名大史

㉛加藤鐐五郎と名古屋大学

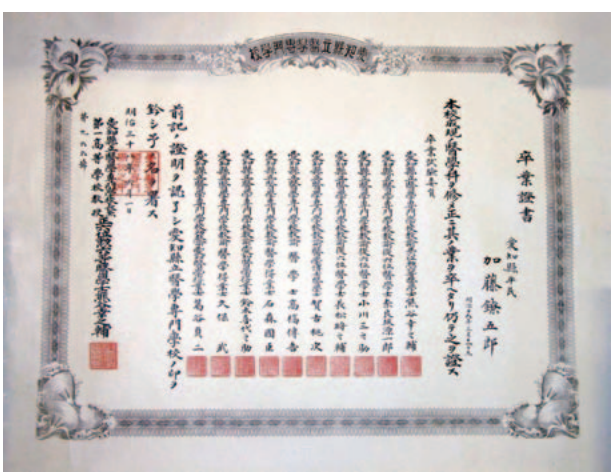
加藤鐐五郎（1883～1970）は、1910年代から60年代にかけて活躍した、当時の愛知県を代表する政党政治家です。名古屋市議、愛知県議をへて、1924（大正13）年には衆議院議員に初当選し、以後当選12回、通算で30年間もその職にありました。戦後は法務大臣や衆議院議長を歴任、勲一等旭日大綬章をうけています。

鐐五郎は、名古屋大学医学部の前身である愛知県立医学専門学校を1905（明治38）年に卒業し、医師となりますが、やがてかねてよりの志をはたすべく政治家への道を歩みました。ただそれ以後も、愛知医専の人脈がその政治活動をささえたといいます。鐐五郎も、愛知医専の大学昇格運動では県知事との交渉や県会での演説、官立名古屋医科大学発足時の鳩山一郎文部大臣との談判など、尽力をおしみませんでした。

また鐐五郎は、1944（昭和19）年に名古屋帝国大学から医学博士号を授与されています（「ラッテ」胸腺ノ組織学的研究）。これは1937年の落選による約２年間の「浪人」時代、研究生となって名古屋医科大学に通い勉強した成果でした。戦時中の財団法人喜安病院の設立や、戦後の嫌煙薬「キンエン」の開発は、鐐五郎が名古屋（帝国）大学医学部との連携のもとにおこなった事業です。

一昨年、孫婿にあたる加藤延夫愛知医科大学学長（元名古屋大学総長）から、「加藤鐐五郎関係資料」が愛知県公文書館へ寄託されました。歴史的価値の高い大変貴重な史料群です。これについては、11月発行の『愛知県公文書館だより』第９号に紹介記事があります。

▲愛知医専時代の鐐五郎
（『加藤鐐五郎伝』より）



卒業證書

加藤鐐五郎

▲愛知医専の卒業証書（愛知県公文書館）

▲衆議院議員時代（1924年）
（『加藤鐐五郎伝』より）

學位記

論文「ラッテ」胸腺ノ組織學的研究

加藤鐐五郎

右論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ本學醫學部教授會ニ於テ學位ヲ授與スヘキ學力アリト認メタリ仍テ大正九年勅令第二百號學位令ニ依リ茲ニ醫學博士ノ學位ヲ授ク

昭和十九年一月二十四日

名古屋帝國大學

▲名帝大の医学博士号学位記（愛知県公文書館）

本連載で紹介できる名古屋大学の歴史に関する情報をお持ちでしたら、
大学文書資料室（052-789-2046、nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp）へご連絡下さい。

R100
古紙配合率100%再生紙を使用